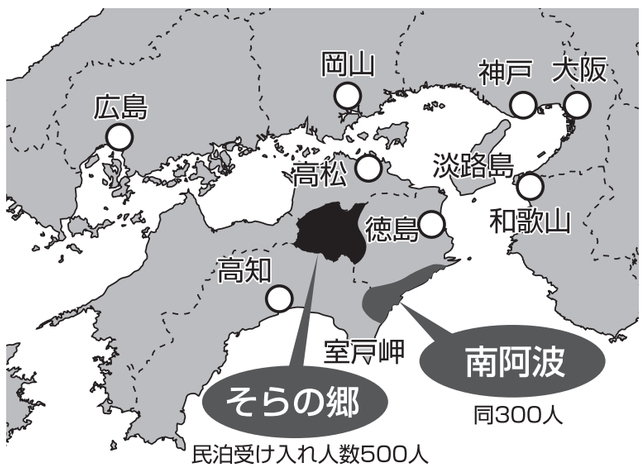
徳島県 自然と暮らしを通した体験学習

ウミガメが産卵に訪れる遠い昔から営まれ続けた自然、日本の原風景とも言われる山あいの村落、そして自然と人の暮らしが融合した文化――四国・徳島県にはいまなおそれらが生活の基軸となっている地域がある。日本人に薄れかけていたアイデンティティを体験学習の場を通して改めて気付かさせてくれる地域が、同県の南部と西部にある。教育旅行の受け入れコーディネート組織「南阿波よくばり体験推進協議会」と「そらの郷山里物語協議会」が、その役割を担っている。その２つの地域をメーンに、「全国ほんもの体験フォーラムin徳島」が、平成25年３月16～18日の３日間にわたり開催される。同フォーラムでは、「ほんもの体験」の理念や地域振興の手法、全国各地の取り組み事例や課題などが語られる。体験学習の推進は、教育問題、地域活性化、観光振興、環境問題など日本の社会問題の解決策となる有効な手段として期待が寄せられている折から、教育旅行に向けて先進的な取り組みを進める２つのコーディネート組織にスポットをあてた。



山里の暮らしを体感
達成感を得るラフティング
心の交流・感動体験
そらの郷山里物語

ほとんどの学校が取り入れる吉野川ラフティング

「そらの郷」は、四国のへそにあたる徳島県西部の「にし阿波観光圏」（三好市、東みよし町、つるぎ町、美馬市）にある。にし阿波観光圏には、四国第2の高峰「剣山」をはじめ、四国一の清流「穴吹川」、日本三大秘境「祖谷地方」、日本三大奇橋「祖谷のかずら橋」、巨岩・奇岩で有名な「大歩危・小歩危」、「うだつが上がる」の語源となった「うだつの町並み」などがあり、日本の原風景がたくさん残っている。

教育旅行の受け入れ組織は、平成19年に「そらの郷山里物語協議会」が設立。平成23年2月には法人化され、「一般社団法人そらの郷」として新たなスタートを切った。

同地域の体験プログラムは「農山村の暮らし」を生かした内容で、自然、農林業、郷土料理、伝統工芸、アウトドアスポーツなど多彩だ。さらに、個々の家庭に溶け込み、農山村の暮らしそのものを体験することで、コミュニケーションを図り、助け合うことの大切さ、ほんものの感動を知ることができる。加えて家人がインストラクターとなって、常に安全に配慮しながら体験プログラムを実施している。

民泊での体験は、生徒にとってとても印象深いものとなるようで、体験の後には「本当の孫のように接してもらい、感動した」「普段気にしていなかった食べ物のありがたさを感じた」などと書かれた手紙が届く。保護者からも「前より積極的になり驚いた。大変うれしい」といったお礼の言葉がたくさん寄せられている。

また、体験プログラムの中でも人気が高いのがラフティングだ。ほとんどの学校で取り入れられている。ラフティングを行う吉野川は、激流が多く起伏にも富んでいるため、日本最高のラフティングスポットと言われている。

開始前には、インストラクターがしっかり説明を行い、安全管理も徹底している。ラフティングの醍醐味は何といっても、1つのボートに同乗する仲間がゴールに向かって力を合わせ、難しい波を乗り越えたときに得られる達成感だ。究極の共同作業で目標を成し遂げた時、お互いに労をねぎらい合い成長することができる。

現在の受け入れ農家数は156軒（受け入れ可能人数は約500人）。同日に複数校の受け入れも可能だ。

そらの郷では、体験型観光講演会や研修会などを数多く実施し、受け入れ態勢の充実を図っている。受け入れ地区拡大に向けての取り組みも積極的に進める。

「ぜひ、自然が豊かで人情の豊かな『そらの郷』へお越しください」と全国の高等学校に来訪を呼びかけている。

住民の手ほどきで番茶作り

そば打ち体験

昔ながらの藁草履作り

山里の原風景、落合集落

◆お勧めプログラム

農山村の暮らし体験（農家民泊）

日本の原風景の中で民泊を体験するもの。各家庭での暮らしそのままを体感する。

吉野川ラフティング体験

吉野川は日本最高のラフティングスポットと高い評価を受けている。力を合わせて激流を乗り越えた時の達成感は、最高の思い出となる。

リバーカヤック体験

四国三郎吉野川、水質四国一の清流穴吹川の自然を満喫できる。

◆地域の特性

周りを四国の険しい山々に囲まれ、今なお日本の原風景が残る地域。受け入れ家庭の多くは急傾斜地の山に張り付いたように建つ集落にある。

「都市部に住む人がその景観を見れば、そこでの暮らしに対する興味がわくはずです」とそらの郷。

コーディネート組織
一般社団法人そらの郷
〒778-0003徳島県三好市池田町サラダ1893-1
TEL 0883-76-0713　FAX 0883-72-0753
E-mail:sora@cn05.awaikeda.net
http://www.soranosato.jp/index.html

充実の68プログラム
半径25キロ圏内で多彩な体験
新たな出会いのはじまり
南阿波よくばり体験

黒潮の幸が堪能できるカツオのたたき作り

南阿波よくばり体験は、徳島県南部の海部（かいふ）地域の中で、自然体験、スポーツやアウトドア、漁業や農林業、味覚体験（海産物加工）、伝統工芸体験（地場産業）、歴史文化体験など68種類の体験プログラムを用意している。

同地域の大きな魅力は半径25キロメートル（車で30分）以内ですべての体験ができること。南阿波は文字通り「よくばりな体験エリア」だ。

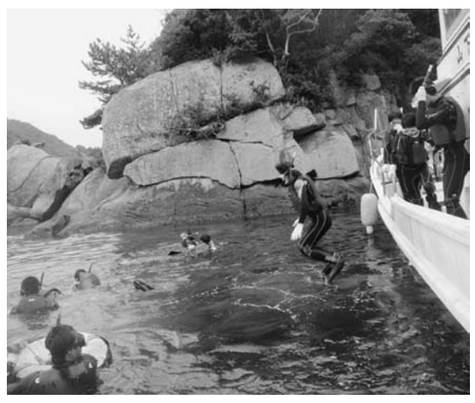
平成16年にスタートした南阿波よくばり体験推進協議会は、現在までに51校の教育旅行を受け入れ、一昨年10、11月には、初めて関東から2校の高校を受け入れた。今年度も群馬県の養護学校からの本予約が入っており、少しずつ関東からの利用も増えてきている。

体験プログラムは、こだわった南阿波よくばり体験をはじめ、知られざる清流「海部川」での渓流釣り、無人島・牟岐大島でのシュノーケリングや出羽島の心太（ところてん）作りとトレッキング、鳴り物入りで阿波踊りの踊り方を習い踊る本場の阿波踊り体験、四国霊場88ケ所お遍路の体験など。南阿波よくばり体験ならではの体験を多数用意している。

また、伊勢エビ刺し網体験、伝統漁法「打ち網漁（追い込み漁）」体験、定置網漁体験、港釣りなどの漁業体験はもちろん、特産の「ゆず」の収穫体験や林業間伐体験、5月から10月にかけてできるシーカヤック、シュノーケリング、サーフィン、ボディーボードなどのマリンスポーツ体験なども楽しめる。

民泊も農林漁家生活体験として受け入れをしており、平成24年3月現在の登録軒数は91軒を数え約300人の宿泊が可能だ。このほか宿泊施設は、ホテル、旅館、民宿、キャンプ場など合わせて32の施設が利用可能で、最大で1日約1300人を収容できる。

受け入れ組織の南阿波よくばり体験推進協議会では「徳島空港からバスで約100分、新神戸駅からバスで約3時間、意外と近い南阿波へぜひ1度お越しください。この、阿波にきっと満足していただけます」と話している。


無人島・牟岐大島でのシュノーケリング

自然の恵みを体感する打ち網漁

ユニークなウミガメの甲羅洗い体験

伊勢エビ料理にチャレンジ

仲間との絆を感じるキャンプファイヤー

コーディネート組織
南阿波よくばり体験推進協議会
〒775-8570 徳島県海部郡牟岐町大字中村字本村7-4 3階
TEL 0884-72-2622　FAX 0884-72-2623
E-mail:yokubari@minamiawa.info
http://www.minamiawa.info

第9回全国 2013年3月 16(土)日 17(日)日 18(月)日

ほんもの 体験フォーラム in 徳島

昨年3月に発生した東日本大震災の影響で中止となった「全国ほんもの体験フォーラムin徳島」が、平成25年3月16日～18日の3日間、再び、徳島県を舞台に開催されることが決定いたしました。

本フォーラムは、受け入れ先進地、旅行会社、国や自治体、学校教育関係者など体験型観光に熱い思いを寄せる人が一堂に会するため、「ほんもの体験」の理念や地域振興の手法、全国各地の取組事例や課題など体験型観光についての「本音」を聞くとともに全国の情熱ある推進者たちと広く交流し、高い志を共有する場としても絶好の機会となっております。

多くの方と第9回「全国ほんもの体験フォーラムin徳島」で交流を深めることを願い、皆様のご参加をお待ちしております。

プログラム（予定）
16日　全体フォーラム（事例発表、記念講演、公開パネルディスカッション、情報交換会）
会場:アスティとくしま（徳島市）
17日　課題別研究分科会
会場:美馬市、東みよし町、三好市、美波町、牟岐町、海陽町
体験ツアー（～18日）
会場:海陽町、牟岐町、美波町、美馬市、つるぎ町、東みよし町、三好市

主催：全国ほんもの体験フォーラムin徳島実行委員会
共催：全国ほんもの体験ネットワーク
お問い合わせ：全国ほんもの体験フォーラム徳島実行委員会事務局
徳島県観光政策課☎088-621-2356／㈶徳島県観光協会☎088-624-5140
南阿波よくばり体験推進協議会☎0884-72-2622／
一般社団法人そらの郷☎0883-76-0713